

第56期 事業報告書

平成14年4月1日から平成15年3月31日まで

 777電子株式会社

医療と健康をつなぐテクノロジー



目次

ごあいさつ	1
財務ハイライト	2
特集	3
新製品紹介	5
トピックス	6
連結営業の概況	7
部門別の連結概況	8
連結財務諸表	9
単体財務諸表	12
会社概要	13
株式の状況	14
お知らせ	14

取締役社長

福田 考太郎



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

当社は、平成15年3月31日をもちまして、第56期を終了いたしましたので、ここに営業の概況ならびに当期決算につきましてご報告申し上げます。

なお、当期末の配当金は、1株につき15円とし、中間配当金15円と合わせて通期配当金は30円とさせていただきます。

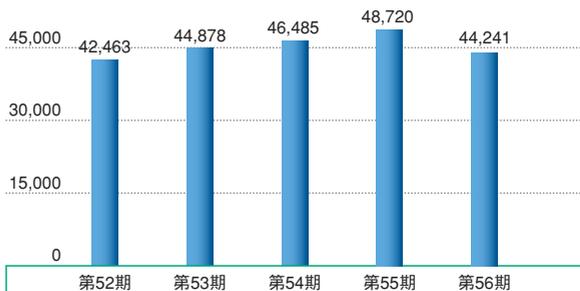
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財務ハイライト

● 単体

(単位 百万円)

売上高



● 連結

(単位 百万円)



■ 経常利益 ■ 当期利益

(単位 百万円)

経常利益・当期利益



■ 経常利益 ■ 当期純利益

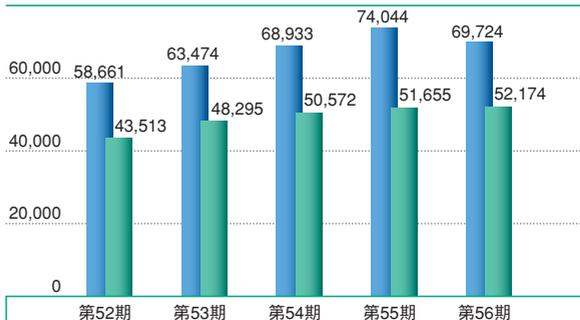
(単位 百万円)



■ 総資産 ■ 純資産

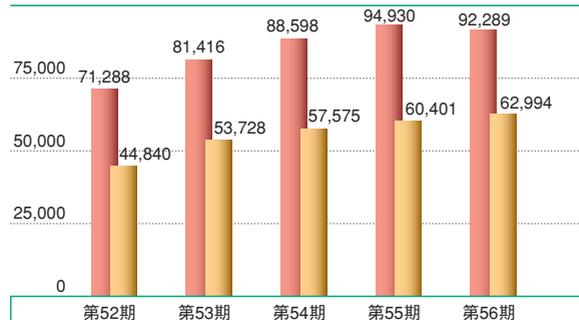
(単位 百万円)

総資産・純資産



■ 総資産 ■ 純資産

(単位 百万円)



腕時計感覚で睡眠時無呼吸検査！

最近、メディアでも取り上げられている交通機関における居眠り運転を契機にして、国民の睡眠時無呼吸症候群（以下SAS）への関心が高まってきました。3月には国会でも、この問題に関係した運輸・交通従事者についてのSAS関連の質疑が行われ、睡眠呼吸障害に起因する事故等の防止対策に関する連絡会議も開催されています。

SASの検査は、①問診 ②SASと診断するためのスクリーニング検査 ③SASと診断された患者様の治療方針を決定するための入院を伴う精密検査があります。①の問診では、世界標準の問診票（ESS問診票＝Epworth Sleepiness Scale）が用いられます。



■ESS問診票

当てはまるものを選んで点数で答えて下さい

*11点以上は睡眠障害の疑いがあります

- 0：居眠りをする事は絶対にない
- 1：時々居眠りをする事がある
- 2：居眠りをする事がある
- 3：だいたいいつも居眠りをしてしまう

- 座って読書をしているとき
- テレビを見ているとき
- 人の大勢居る場所で座っているとき（会議中や映画館にいるときなど）
- 他の人が運転する車に乗せてもらっていて、1時間くらい休憩なしでずっと乗っているとき
- 座って人とおしゃべりしているとき
- お昼ご飯の後に、静かに座っているとき
- 午後にじっと横になっているとき
- 自分が車を運転していて、数分間信号待ちをしているとき



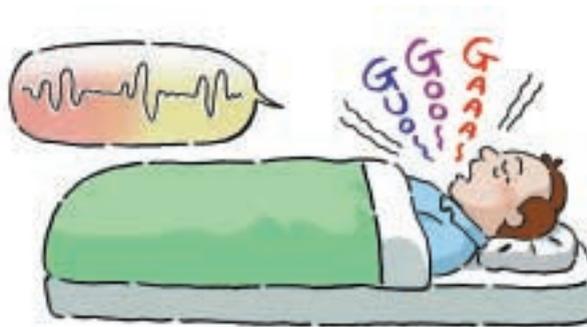
携帯型睡眠ポリグラフ パルスリーブ LS-100
医療用具承認番号：21400BZZ00537000

②のスクリーニング検査は、この問診によりSASが強く疑われる患者様に対し、SASの診断を目的として実施する検査です。検査項目は、鼻呼吸・気道音（いびき音）・動脈血酸素飽和度の3項目で、終夜連続して測定します。この検査は、患者様のご負担を軽減するため、携帯型睡眠ポリグラフ装置が用いられご自宅で簡単に行えます。

当社では、従来器の「スリープテスタLT-200」に加えて、今春に「パルスリーブLS-100」を発売しました。この製品は、検査項目を上記の3項目に絞り、測定と装着をよりシンプルに腕時計感覚で検査ができる特徴を持っています。

SASへの関心の高まりは、即ち、「自分はSASかもしれない」という不安を抱く人々が多い証拠です。このパルスリーブLS-100はSASの診断や判定に安心してお使いいただける製品です。

SASの有病率は、日本の人口の1~2%といわれており、循環器障害や脳血管障害の併発も指摘されています。また、個人の健康を損なうだけでなく、日中傾眠から引き起される交



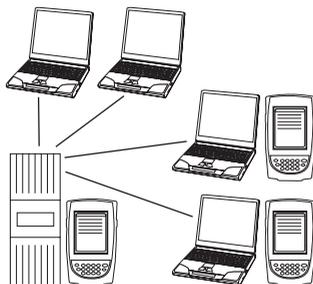
通事故や産業事故の損失を計算すると莫大なものとなります。

当社では、スクリーニング検査から精密検査までの検査装置と、治療装置であるCPAPのレンタルサービスを行い、睡眠医療のお手伝いを行っています。フクダ電子グループは患者様の良い眠りのために、検査装置の導入から治療装置の在宅サービスまで、万全のサポート体制でお応えしてまいります。



■睡眠時無呼吸症候群 —Sleep Apnea Syndrome—

寝ている時に呼吸が止まり、大きないびきを繰り返す病気です。睡眠中に呼吸が10秒以上停止することを無呼吸といい、この無呼吸が一晩（7時間以上の睡眠中）に30回以上生じる状態を睡眠時無呼吸症候群といいます。



(システムイメージ)

安全点検システム MARIS (特許出願中)

医療機器の安全推進への積極的な取り組みの中から、安全点検システムを国立系大学病院と共同開発。

病院内で行う医療機器の保守・点検管理をパソコン、PDA (携帯型端末装置)、バーコードを使って、簡易にできる仕組みを確立、製品化に成功しました。

医療機器管理部門が保管していた、貸出し記録、定期点検記録や修理記録などの様々な情報をパソコンのデータベースで一元管理が可能。ペーパーレス化することで労力を軽減します。



生体情報モニター DS-7100/7110/7120

主に患者様の傍に設置し、心電図や血圧、体温、脈拍などの生体信号を表示します。容態が急変した際に、アラーム等で即時に事態をお知らせします。

医療従事者すべての方が、簡単に操作できるように設計されています。



解析付心電計 FCP-7431

心電図から突然死の危険因子を見つけ出せたら…。そんな願いを、最新のコンピューター解析ソフトに搭載した当社期待の心電計です。

心臓病や生活習慣病などの早期発見に役立ち、心電図検査に使用されます。

時代をリードする、最新知能とクラス最大の画面サイズ、また表示の鮮やかさにより抜群の操作性を誇ります。



携帯型睡眠ポリグラフ パルスリープLS-100

ただの居眠り運転と思われていた事故や仕事中のこらえ切れない眠気が、実は“睡眠時無呼吸症候群”という病気でした。

このスクリーニング検査に使用されるコンパクトな装置です。就寝時に装着し、睡眠中のイビキや呼吸などの状態を測定、記録して、診断に活かされます。

日本ではじめて腕時計感覚の設計を実現し、さらに患者様にやさしくなった新型モデルです。



PTCAカテーテル Truelink

血管内の狭まりや詰まりにより血液の流れが悪くなった部分を広げ、正常な流れにもどす冠動脈形成術という治療に使う細く長いクダ状の製品です。

狭心症、心筋梗塞の治療法の一つで、外科的手術に比べ患者様の負担が軽減され、日帰り入院で済むなど、メリットを生んでいる発展著しい分野に対応しております。

(写真はイメージ画像です)



パルスオキシメーター マイクロ2+

採血をせずに、センサーに指を挟むだけで、血液中に溶け込んでいる酸素濃度と脈拍を測定します。入院中の患者様はもちろん、慢性的な酸素不足に悩む在宅酸素療法を受ける患者様の健康状態を計る目安としても利用されている手の平サイズの装置です。

フクダ電子は、医学学会・研究会を支援し、医学の進歩に貢献しております。

- European Society of Cardiology (2002.8)
国際学会展示風景 (ドイツ：ベルリン)



- 第67回日本循環器学会総会 (2003.3)
国内学会展示風景 (福岡：マリンメッセ福岡)



テレビ・映画に見るフクダ電子 医療機器を通じて、テレビ・映画の医療シーンに協力しております。

● テレビ

連続ドラマ『サトラレ』

テレビ朝日 (2002年7月～)

連続ドラマ『仮面ライダー龍騎』

テレビ朝日 (2002年7月～)

『テレビ博物館』

東海テレビ (2002年10月)

『警視庁 鑑識班15』

日本テレビ (2002年10月)

連続ドラマ『NIGHT HOSPITAL』

日本テレビ (2002年10月～)

『立原啓裕の体にいい時間』

サンテレビ (2002年10月)

『解決! クスリになるテレビ』

テレビ東京 (2002年11月)

連続ドラマ『相棒』

テレビ朝日 (2002年12月～)

『九死に一生SP14弾』

日本テレビ (2002年12月)

『生活ほっとモーニング』

NHK (2002年12月)

『オリент急行殺人事件』

テレビ朝日 (2003年1月)

連続ドラマ『仮面ライダー555』

テレビ朝日 (2003年1月～)

連続ドラマ『メッセージ』

日本テレビ (2003年1月～)

連続ドラマ『年下の男』

TBSテレビ (2003年1月～)

連続ドラマ『伝説のマダム』

日本テレビ (2003年4月～)

『どうぶつ奇想天外!』

TBSテレビ (2003年3月)

『産婦人科医 南雲綾子』

日本テレビ (2003年4月)

連続ドラマ『顔』

フジテレビ (2003年4月～)

『介助犬シンシア』

毎日放送 (2003年5月)

連続ドラマ

『ブラックジャックによろしく』

TBSテレビ (2003年4月～)

連続ドラマ『動物のお医者さん』

テレビ朝日 (2003年4月～)

『いつでも笑みを』

関西テレビ (2002年12月)

● 映画

『恋に歌えば!』

全国東映系 (2002年11月)

『13階段』

全国東宝系 (2003年2月)

『黄泉がえり』

全国東宝系 (2003年3月)

● その他

『ゴルフダイジェスト』

雑誌 (2003年5月)



ラウンド中のゴルファー心理を解明する実験に、当社のホルター心電計 F M - 150 が活躍しました。

当期における日本経済は、金融機関における不良債権処理の長期化、株価の低迷やデフレの進行、加えてイラク戦争による米国経済の先行き不安などにより厳しい状況となりました。

また、医療機器業界におきましては、期初に薬価や特定医療材料償還価格（公定価）の引下げ、10月からは高齢者医療費自己負担増などにより、更に厳しい市場環境となりました。

このような状況の中、連結売上高は707億10百万円（前期比0.5%減）となりましたが、利益面におきましては、新製品投入による売上総利益の確保、販売費及び一般管理費の削減により、連結経常利益は92億23百万円（前期比17.1%増）となり、連結当期純利益は48億79百万円（前期比59.8%増）となりました。

当期における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動による収入が39億14百万円（前期比53.1%減）ありましたが、有形固定資産ならびに自己株式の取得等による支出が発生した結果、前期に比べて2億75百万円減少し、253億64百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当期において、営業活動によって得られた資金は、39億14百万円（前期比53.1%減）となりました。

これは税金等調整前当期純利益93億90百万円を計上しましたが、仕入債務の減少および法人税等の支払額があったこと等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当期において、投資活動によって使用した資金は、有形固定資産の取得等が発生したものの、保険積立金の取崩しによ

る収入があったこと等により、30億83百万円（前期比52.6%減）となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当期において、財務活動によって使用した資金は、短期借入金の増加による収入があったものの、自己株式の取得による支出等があったため10億83百万円（前期は2億88百万円の収入）となりました。

わが国の経済は依然としてデフレの深刻化が懸念されております。また世界経済においてもイラク戦争後の米国経済やSARS（重症急性呼吸器症候群）によりアジア経済は先行き不透明な状況です。

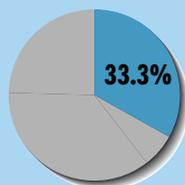
当医療機器業界におきましても、医療行政改革による医療費抑制策のため、引き続き厳しい市場環境が続くものと見込まれます。

このような状況の中、当社グループといたしましては、性能・コスト競争力の優れた製品の市場投入に加え、病院市場・在宅市場ならびに輸出の拡大に全グループをあげて取り組み、業績の拡大を図るとともに、医療機器メーカーとして「社会から信頼される会社」を目指してまいります。

次事業年度の業績の見通しにつきましては、連結売上高735億円（対当期比3.9%増）、連結経常利益98億円（対当期比6.3%増）、連結当期純利益50億90百万円（対当期比4.3%増）を見込んでおります。

部門別の連結概況

生体検査装置部門



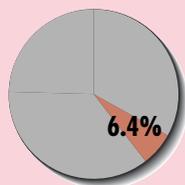
当期売上高
235億20百万円

生体検査装置部門は、生体機能を示す物理現象を電気信号に変換し、測定記録する心電計、超音波画像診断装置、ポリグラフ、血球計数装置、呼吸機能検査装置などを主に扱っております。

当期においては、新たに投入した血圧脈波検査装置の売上や超音波画像診断装置の輸出売上に貢献したものの、心電計や超音波画像診断装置の国内売上ならびに尿検査装置や呼吸機能検査装置などの売上が伸び悩んだため、売上高は235億20百万円（前期比0.1%増）となりました。



生体情報モニター部門



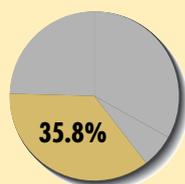
当期売上高
45億60百万円

生体情報モニター部門は、集中治療室、手術室、救急病棟などで患者様の生体諸機能情報を長時間にわたってモニターするセントラルモニター、ベッドサイドモニター、医用テレメーターを主に扱っております。

当期においては、病院市場を中心とした価格競争激化の影響を受け、売上高45億60百万円（前期比6.1%減）となりました。



治療装置部門



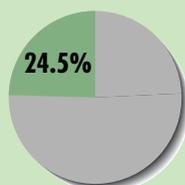
当期売上高
252億93百万円

治療装置部門は、心臓に電気的な刺激を与え、心停止の蘇生や調律異常を治療するデフィブリレーターやペースメーカー、呼吸不全の患者様の呼吸運動を補助する人工呼吸器、慢性呼吸不全の患者様に対し家庭で酸素を投与する在宅酸素濃縮器、また血管拡張用、補助循環用などのカテーテルを主に扱っております。

当期においては、睡眠時無呼吸症候群関連機器のレンタル売上やカテーテル類が売上に伸ばしたものの、診療報酬の引下げや高齢者医療費自己負担増の影響により在宅酸素濃縮器のレンタル売上が減少したため、売上高252億93百万円（前期比2.8%減）となりました。



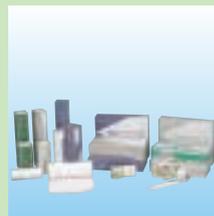
その他部門



当期売上高
173億35百万円

その他部門は、記録紙、ディスプレイ電極や上記各部門の器械装置に使用する付属品および消耗品を主に扱っております。

当期においては、新規参入分野（血圧脈波検査装置・睡眠時無呼吸症候群関連機器）における消耗品の売上増により、売上高173億35百万円（前期比4.0%増）となりました。



連結財務諸表

● 連結貸借対照表 (平成15年3月31日現在)

(単位 百万円)

科目	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	25,688
受取手形及び売掛金	18,306
有価証券	499
たな卸資産	13,556
繰延税金資産	1,648
その他	1,952
貸倒引当金 △	209
流動資産合計	61,443
固定資産	
有形固定資産 ※3	
建物及び構築物	3,478
機械装置及び運搬具	374
工具・器具及び備品	7,286
土地	5,142
建設仮勘定	22
有形固定資産合計	16,304
無形固定資産	
連結調整勘定	9
その他	899
無形固定資産合計	909
投資その他の資産	
投資有価証券※1	3,794
繰延税金資産	6,729
その他※1	3,113
貸倒引当金 △	4
投資その他の資産合計	13,632
固定資産合計	30,846
資産合計	92,289

科目	
負債の部	
流動負債	
支払手形及び買掛金	10,029
短期借入金	9,464
未払法人税等	1,430
賞与引当金	1,523
新株引受権	45
その他	1,825
流動負債合計	24,319
固定負債	
社債	765
長期借入金	9
退職給付引当金	2,985
役員退職慰労引当金	1,192
その他	11
固定負債合計	4,964
負債合計	29,284
少数株主持分	
少数株主持分	11
資本の部	
資本金 ※4	4,387
資本剰余金	8,684
利益剰余金	51,837
その他有価証券評価差額金 △	129
為替換算調整勘定	61
自己株式 ※5 △	1,846
資本合計	62,994
負債、少数株主持分及び資本合計	92,289

注記事項

- ※1. 非連結子会社及び関連会社に係る注記
非連結子会社及び関連会社に対するものは次のとおりであります。
- | | |
|---------|--------|
| 投資有価証券 | 524百万円 |
| (株 式) | |
| そ の 他 | 3百万円 |
| (出 資 金) | |
2. 手形割引高 198百万円
(輸出手形割引高)
- ※3. 有形固定資産の減価償却累計額 14,317百万円
- ※4. 当社の発行済株式総数は、普通株式 19,404千株であります。
- ※5. 当社が保有する自己株式の数は、普通株式 930千株であります。

● 連結損益計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで) (単位 百万円)

科目	
売上高	70,710
売上原価	37,293
売上総利益	33,416
販売費及び一般管理費 ^{※1} _{※2}	24,411
営業利益	9,005
営業外収益	312
受取利息	18
受取配当金	26
為替差益	4
貸倒引当金戻入益	14
その他	247
営業外費用	93
支払利息	78
その他	15
経常利益	9,223
特別利益	717
保険解約益	717
特別損失	550
固定資産売却損 ^{※3}	31
固定資産除却損 ^{※4}	107
ゴルフ会員権評価損	14
投資有価証券評価損	396
税金等調整前当期純利益	9,390
法人税、住民税及び事業税	3,736
法人税等調整額	771
少数株主利益	2
当期純利益	4,879

注記事項

※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。

役員従業員給料手当等	9,547百万円
賞与及び賞与引当金繰入額	2,505百万円
役員退職慰労引当金繰入額	86百万円
退職給付費用	669百万円
減価償却費	939百万円

※2. 一般管理費に含まれる研究開発費は、734百万円であります。

※3. 固定資産売却損の内訳

土地	15百万円
その他	15百万円
合計	31百万円

※4. 固定資産除却損の内訳

工具・器具及び備品	28百万円
ソフトウェア	58百万円
その他	20百万円
合計	107百万円

●連結剰余金計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

(単位 百万円)

科目	
資本剰余金の部	
資本剰余金 期首 残高	8,683
資本剰余金 増加高	0
自己株式処分 差益	0
資本剰余金 期末 残高	8,684
利益剰余金の部	
利益剰余金 期首 残高	47,604
利益剰余金 増加高	4,879
当期 純利益	4,879
利益剰余金 減少高	646
配当金	572
役員賞与	70
(うち 監査役賞与)	(0)
従業員奨励及び福利基金 ^(注)	3
利益剰余金 期末 残高	51,837

(注) 従業員奨励及び福利基金は、中華人民共和国所在の子会社が当該国の法令に基づいて設定したものであります。

●連結キャッシュ・フロー計算書 (平成14年4月1日から平成15年3月31日まで)

(単位 百万円)

科目		科目	
営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前当期純利益	9,390	定期預金の純減少額	31
減価償却費	3,325	有形固定資産の取得による支出	△ 2,998
貸倒引当金の減少額	△ 36	有価証券・投資有価証券の取得による支出	△ 768
賞与引当金の増加額	8	有価証券・投資有価証券の売却による収入	99
退職給付引当金の増加額	6	保険積立金の積立による支出	△ 512
役員退職慰労引当金の減少額	△ 61	保険積立金の取崩による収入	1,498
受取利息及び受取配当金	△ 45	その他	△ 433
支払利息	78	投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,083
固定資産売却損益	31	財務活動によるキャッシュ・フロー	
固定資産除却損	107	短期借入金の純増加額	904
投資有価証券評価損	396	長期借入金の返済による支出	△ 6
保険解約益	△ 717	自己株式の取得による支出	△ 1,418
ゴルフ会員権評価損	14	自己株式の売却による収入	11
役員賞与の支払額	△ 70	親会社による配当金の支払額	△ 572
売上債権の減少額	2,022	少数株主への配当金の支払額	△ 1
たな卸資産の増加額	△ 363	財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,083
仕入債務の減少額	△ 3,843	現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 22
未払消費税等の増加額	63	現金及び現金同等物の増加額	△ 275
その他の	△ 646	現金及び現金同等物の期首残高	25,639
小計	9,660	現金及び現金同等物の期末残高	25,364
利息及び配当金の受取額	35		
利息の支払額	△ 81		
法人税等の支払額	△ 5,700		
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,914		

注記事項

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

(平成15年3月31日現在)

現金及び預金	25,688百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	△324百万円
現金及び現金同等物	25,364百万円

単体財務諸表

●単体貸借対照表（要旨）（平成15年3月31日現在）（単位 百万円）

科目	
資産の部	
流動資産	48,634
現金及び預金	19,424
受取手形	15
売掛金	16,059
たな卸資産	6,757
その他	6,951
貸倒引当金	△ 573
固定資産	21,090
有形固定資産	7,420
無形固定資産	637
投資等	13,032
投資有価証券	3,744
子会社株式	4,299
その他	6,247
投資評価引当金	△ 1,259
資産合計	69,724
負債の部	
流動負債	14,755
支払手形	4,727
買掛金	4,437
未払法人税等	630
その他	4,959
固定負債	2,794
退職給付引当金	1,107
その他	1,687
負債合計	17,550
資本の部	
資本金	4,387
資本剰余金	8,684
利益剰余金	41,078
(うち当期利益)	(2,684)
株式等評価差額金	△ 128
自己株式	△ 1,846
資本合計	52,174
負債・資本合計	69,724

●単体損益計算書（要旨）（平成14年4月1日から平成15年3月31日まで）（単位 百万円）

科目	
営業収益	44,241
営業費用	41,336
営業利益	2,904
営業外収益	1,137
営業外費用	105
経常利益	3,936
特別利益	823
特別損失	480
税引前当期利益	4,279
法人税、住民税及び事業税	1,850
法人税等調整額	△ 255
当期利益	2,684
前期繰越利益	2,233
中間配当額	284
当期末処分利益	4,633

●利益処分

(単位 円)

当期末処分利益	4,633,468,574
これを次のとおり処分いたします。	
利益配当金	277,098,825
(1株につき15円)	
役員賞与金	28,400,000
(うち監査役賞与金)	(1,000,000)
固定資産圧縮積立金	1,289,600
別途積立金	2,000,000,000
次期繰越利益	2,326,680,149

- (注)1. 平成14年12月10日に284,618,505円（1株につき普通配当15円）の中間配当を実施いたしました。
2. 利益配当金は、自己株式930,745株（うち205,000株はストックオプションを目的として取得したものであります。）を除いて計算しております。
3. 固定資産圧縮積立金は、税効果会計の税率変更に伴うものであります。

会社概要 (平成15年3月31日現在)

設立年月日	昭和23年7月6日
資本金	43億8,700万円
営業目的	医用電子機器の製造・販売および輸出入
主な取引銀行	株式会社東京都民銀行 株式会社東京三菱銀行 株式会社みずほ銀行 株式会社UFJ銀行 株式会社北陸銀行 商工組合中央金庫 住友信託銀行株式会社

役員 (平成15年6月27日現在)

代表取締役社長	福高孝太郎
常務取締役	田橋口輝夫
常務取締役	高橋口輝夫
取締役	原大輝夫
取締役	大原大輝夫
取締役	鈴木木川本
取締役	瀬川本
取締役	岩山有
取締役	白藤原
取締役	藤小川
取締役	岡本村
常務監査役	雅良
監査役	一勇
監査役	進行昇
監査役	幸修三
監査役	正法彌
監査役	潤吉
監査役	芳鐵

主な提携・仕入会社

シーメンス社 (ドイツ)
シーメンス・エレマ社 (スウェーデン)
セント・ジュード・メディカル社グループ (U.S.A)
レスピロニクス社 (U.S.A)
ソニー株式会社
ミノルタ株式会社
富士通株式会社
株式会社堀場製作所
TDK株式会社
ゲンゼ株式会社

海外法人

FUKUDA DENSHI USA, INC.
〔アメリカ・ワシントン州〕
資本金：US\$3,300,000
事業内容：医療用電子機器開発・製造
出資比率：100%
北京福田電子医療儀器有限公司
〔中国・北京〕
資本金：US\$1,400,000
事業内容：医療用電子機器製造・販売
出資比率：95%

主な納入先

全国各大学医学部付属病院
官公私立病院
診療所
その他医療機関

フクダ電子グループ (平成15年6月27日現在)

フクダ電子北海道販売株式会社	フクダ電子京滋販売株式会社	フクダライフテック関東株式会社	フクダイインターベンションシステムズ株式会社
フクダ電子北東北販売株式会社	フクダ電子近畿販売株式会社	フクダライフテック東京株式会社	フクダメディカルソリューション株式会社
フクダ電子南東北販売株式会社	フクダ電子南近畿販売株式会社	フクダライフテック横浜株式会社	株式会社フクダ電子多賀城研究所
フクダ電子新潟販売株式会社	フクダ電子兵庫販売株式会社	フクダライフテック長野株式会社	株式会社フクダ物流センター
フクダ電子北関東販売株式会社	フクダ電子中国販売株式会社	フクダライフテック北陸株式会社	フクダ電子技術サービス株式会社
フクダ電子西関東販売株式会社	フクダ電子四国販売株式会社	フクダライフテック中部株式会社	エフアンドエル株式会社
フクダ電子南関東販売株式会社	フクダ電子西部北販売株式会社	フクダライフテック関西株式会社	株式会社フクシン
フクダ電子東京販売株式会社	フクダ電子西部南販売株式会社	フクダライフテック南近畿株式会社	株式会社エムイータイムス
フクダ電子東京西販売株式会社	フクダライフテック北海道株式会社	フクダライフテック兵庫株式会社	
フクダ電子神奈川販売株式会社	フクダライフテック北東北株式会社	フクダライフテック中国株式会社	
フクダ電子長野販売株式会社	フクダライフテック南東北株式会社	フクダライフテック四国株式会社	
フクダ電子北陸販売株式会社	フクダライフテック新潟株式会社	フクダライフテック九州株式会社	
フクダ電子中部販売株式会社	フクダライフテック常葉株式会社	フクダバイタルテック株式会社	

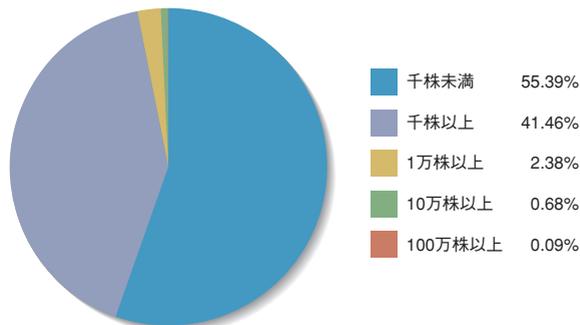
株式の状況 (平成15年3月31日現在)

発行する株式の総数	30,000,000株
発行済株式の総数	19,404,000株
当期末株主数	3,234名

大株主

株主名	当社への出資状況	
アトミック産業株式会社	2,438千株	12.57%
東京エンタープライズ株式会社	1,447	7.46
ポストセーフデポジットビーエスディーテー トリーテイクライアンツオムニバ	1,233	6.36
株式会社東京都民銀行	947	4.88
ザチェースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	758	3.91
株式会社みずほ銀行	737	3.80
株式会社東京三菱銀行	725	3.74
日本生命保険相互会社	672	3.47
福田順子	550	2.84
福田孝	549	2.83

株式の状況



株主の皆様へ フクダ電子からのお知らせ

本年4月1日施行の商法改正により、当社は次の制度を導入いたします。

株券失効制度

株券失効制度とは、株主様がご所有の株券を紛失された場合、従来の裁判所に申し立てて除権判決を得る手続きに代わり、当社の名義書換代理人（住友信託銀行）に対して株券喪失登録を申請し、その後異議の申し立てなく1年が経過すれば、当該株券を無効とした上で、再び株券を発行することができる制度です。

単元未満株式の買増制度

単元未満株式の買増制度とは、単元未満株式（当社の場合は100株未満の株式）をご所有の株主様が発行会社（当社）に対して、その単元未満株式と併せて1単元となるべき単元未満株式の買増を請求できる制度です。

（証券保管振替制度をご利用の株主様はお取引の証券会社にお問い合わせください。）

※買増請求は7月1日(火)より受付開始いたします。

■上記制度にかかる手続き、費用などのお問い合わせにつきましては、当社名義書換代理人である住友信託銀行にご連絡ください。

お問い合わせ先 住友信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-176-417

●株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基準日	毎年3月31日
公告掲載新聞	そのほか、必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。 東京都において発行する日本経済新聞
1単元の株式の数	100株
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	(住所変更等用紙のご請求) 0120-175-417 (24時間対応) (その他のご照会) 0120-176-417
(インターネットホームページURL)	http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

生命の息吹、つたえる、企業。

フクダ電子には、世界の人々を健康に導く永遠のテーマがあります。
私たちは、体とのコンタクトに用いる医療用電子機器の研究・開発を通じ
明日の健康社会に貢献する新たな技術を常に追求しています。



医療と健康をつなぐ
テクノロジー

フクダ電子株式会社

本社 東京都文京区本郷3-39-4 TEL.(03)3815-2121(代)

ホームページ <http://www.fukuda.co.jp/>